



FOA · EAST NEWS No.8

1990. 8. 19.

スーパーボウルを見ながら

服部 慎吾

少し古い話になるが、今年の1月29日は朝早くからテレビの前に座り込んでニューオルリンズから送られて来たスーパーボウルを観戦した。

試合の方は55-10とサンフランシスコが一方的にデンバーを圧倒して大味な試合であったが、大変愉快なシーンが2カ所あった。それは、モンタナの抜群のテクニックでま、又ハーフタイムショウの見事さでもなかった。試合開始直前に画面に出た30秒位の短いシーンであった。

1つは1人の選手がボールを持って立って居るのを足元から撮っていた。先づ足にはくるぶし位迄ある深い編み上げの靴である。現在のような浅いものではなく捻挫防止の為に深いスパイクシューズ、それから上には膝のパッドをつけたダブついたパンツ、現在のに比べると着けているのかわからない位のショルダーパッド、そしてその上の頭にはフェースマスクなど無い現代とは大部変わったヘルメットと云うスタイルの選手である。これらから想像するとこれは1930年頃の写真ではないかと思はれる。

日本にフットボールが来たのは1934年であり、その時の服装がこれと同じであった。当時は日本にはフットボールの道具等は無かったのでポール・ラッシュ氏等創立者は道具から用意しなければならなかった。それには日米協会その他を走り回って資金を調達し、それで牛込の江戸川橋の玉沢運動具店と交渉し、米国大使館付武官のブース中尉が持っていた防具をサンブルにして造った。輸入等は当時の日本の国内事情としては出来ないことであった。玉沢運動具店はアイスホ

ッケーの用具等を製造していたので多少は能力もあっただろうが、何しろ初めてのことで、金型から作り、苦勞したことであろう。玉沢が造った道具がこのテレビに出た選手と同じであったので楽しかった。この道具は、玉沢の倉庫の隅にでも残っていないだろうか？

もう1つのシーンは、この写真より少し後のものと思はれる（それは攻撃チームのヘルメットである）がハドルからスクリーメージラインにつき、そして右のエンドランに出る画面であった。ハドルでQBがシグナルを出し、次にQBの「ワン、ツー、スリー」のコールで各選手がポジションに着くのであるが、それには各選手が3歩で移動するのである。ハドルから近いFBや左HBは小幅で、ラインは大幅に、更に右HBは全力で陸上競技の3段跳びのようにして右Eの右後方迄行き位置するのである。これは全てQBの「ワン、ツー、スリー」のコールに合わせて3歩で位置に着くので非常にリズムカルで見えて楽しかった。その後QBのコールで左HBの選手がボールを受けてQB、FB、プルアウトした両ガードとインターフェアランスをリードとして右Eの外側を回るエンドランのシーンであった。日本に移入された当時のシングルウィングバックフォーメーションはハドル後各位置に着き、その後QBの「ワン、ツー、スリー」のコールに合わせてリズムカルに移動したのである。

この2場面が大変なつかしく思った。それと同時にこのようなリズムカルな動きをするチームが、現在も1つ位あっても面白いのではないかと思った。

（注：服部慎吾氏は、戦後1948年～52年の日本協会理事長として活躍され、1954年、現審判協会の前身である審判部を設立された。
川崎市麻生区片平1-19-21 在住）

89年度の反則集計から

喜入 博

関東審判部では、1987年度より各試合における反則の明細を記録し、報告する制度を採用しています。この集計を担当した岡本 茂和君、井上 和彦君の努力により、1989年度秋季公式戦の反則一覧ができました。集計は、1部、2部、3部などのリーグ別に集計されていますが、今回はこれらをまとめたものを掲載しました。以下、この表から思いつく所を書き記しました。

- ① 1試合における平均反則数は学生5.4、社会人5.5となっており、その差はありません。表にはありませんが、1～3部、準加盟などのリーグ別の平均反則数も、そう大きな違いはありません。

手元にある米国NCAAの同じ1989年度公式戦の集計(注)では、NCAAの1試合当たりの平均反則数は15.1回となっています。NCAAと日本の試合とでは、試合時間、グラウンド状況などが大きく異なりますので、単純な比較はできませんが、感覚的にも日本の試合の反則は少ないと言えるでしょう。

- ② 反則の種類で最も多いのは「エンクローチメントとオフサイド」の反則となっています。大学、社会人とも26～27%となっており、1試合当たり1.4回程の発生となっています。これに不正な手段、ポジション、虚偽のスタート、不正なモーションなどを加えた「スナップ時の反則」は36%となり、1試合の反則の3分の1となります。なお、この「スナップ時の反則」は2部、3部となるにつれて反則の割合が高くなっています。

NCAAでも同様に、このスナップ時の反則は反則の中での最も多い1試合当たり4.7回ですが、反則全体に占める割合は15.1%となっています。

- ③ 次に多いのが「ホールディング、手の不正使用」の反則です。大学、社会人とも1試合に1回近くの反則があったことになります。因みにNCAAでは1試合当たり3回の反則となっています。

- ④ 反則の中で人目を引くのが「クリッピング」と「パス・インターフェアランス」です。集計によるとこれらの反則の割合は5～9%になります。1試合の平均反則数が5.4ですから2～4試合で1回の反則であるといえます。

- ⑤ これまでの「スナップ時の反則」、「ホールディング、手の不正使用」、「クリッピング」、「パス・インターフェアランス」に「パーソナル・ファウル」を加えた5種類の反則で、反則全体の81～84%になります。これらの5つのグループに入る反則がよくある反則であるといえます。

- ⑥ 日本では、別表のごとく1シーズンで全く起きなかった反則が幾つかあります。あの分厚い公式規則書を全部憶えなければならない審判員の立場としては、このような起きない反則に関しては、公式規則から削除してほしい気持ちがありますが、一方、フットボール本国のNCAAでは、試合数が多いことおよび前記の様に反則数が多いことから、発生した反則も広い範囲に渡っています。

しかし、その米国でも1989年度に全く発生していない反則が2つあります。それは「フリーキックのキッカーに対するラフイング・ザ・キッカー」と「試合の運営に対する妨害(15ヤードの罰則となる場合)」です。

(注) NCAAルール委員会より発表された数字で米国の主要20リーグの1,626試合の反則を反則種類、リーグ別に集計したもの。

1989年反則数表

反 則 名	学 合 反則数	生 計 %	社 合 反則数	会 人 計 %	総 合 反則数	計 %
インクルーメント・オフサイド	297	26.1	119	27.0	416	26.3
不正な手段・ポジション、虚偽のスタート	84	7.4	25	5.6	109	6.9
不正なモーション、シフト	37	3.3	17	3.8	54	3.4
ゲームの遅延	34	3.0	18	4.1	52	3.3
交代違反	18	1.6	9	2.0	27	1.7
必要な装具の未整備	1	0.1	0	0	1	0.1
サトラフでの違反	0	0	0	0	0	0
不正な参加	3	0.3	3	0.7	6	0.4
ボールへの不正なキック、バツティング、タッチ	1	0.1	5	1.1	6	0.4
無効な、不正なフェアキッキング	0	0	0	0	0	0
不正なパス、不正な前方への手渡し	5	0.4	0	0	5	0.3
インテンショナルランディング	9	0.8	5	1.1	14	0.9
無資格プレーヤーのフィールドへの侵入	23	2.0	13	2.9	36	2.3
パス・インターフェアランス	93	8.2	25	5.6	118	7.5
キックキチインターフェアランス	5	0.4	3	0.7	8	0.5
ノンコンタクトファウル、スローワークからの行為	7	0.6	2	0.5	9	0.6
ラフイング・ザ・キッカー、ホールド	19	1.7	7	1.6	26	1.6
ラフイング・ザ・バナー	23	2.0	8	1.8	31	2.0
パーソナルファウル(デッドボール、スピリングを含む)	110	9.7	55	12.4	165	10.5
クリッピング	110	9.7	30	6.8	140	8.9
不正な腰から下へのブロック	7	0.6	5	1.1	12	0.8
フォンプブロック	0	0	1	0.2	1	0.1
ホルディング、不正な妨害	198	17.4	74	16.7	272	17.2
手、腕の不正使用	0	0	1	0.2	1	0.1
トリッピング	1	0.1	0	0	1	0.1
ハルピングランナー	0	0	0	0	0	0
フェイスマスク	51	4.5	18	4.1	69	4.4
合 計	1136		443		1579	
ゲ ー ム 数	210		81		291	
1試合当たりの平均発生数	5.41		5.47		5.42	

※ 学生は1部、2部、3部、準加盟、医科歯科の合計。社会人は実業団1部、2部、社会人の合計。

◆理事會報告◆

(文責) 編集部

FOA・EAST・NEWS No. 7に続き、第46回以降の関東審判部理事会の内容の概要を報告します。議事録は公開資料ですので、詳細を知りたい方は各理事が所持している議事録を参照して下さい。

◆第46回理事会(1990年4月13日)

・理事交代に伴う役割分担変更について

栢下、中村両理事の辞任に伴い、後任として中尾、伊藤茂両氏の就任が4月2日の総会で承認されたことを受けて中尾理事が渉外、千田理事が組織、伊藤茂理事が教育の各担当となった。

今後の理事会運営は、喜入理事が司会、伊藤茂理事が議事録収録をそれぞれ担当する。

・年間スケジュールの検討

新人クリニック・・・5月21日(東京ドーム)

9月第1週の公式戦

一般クリニック・・・8月は19日、25日

9月、10月は最終火・木曜日

11月は19日、21日

D. ルイス氏の来日に伴い10月6、7日前後に東京滞在予定。インストラクタを依頼。

・箱根合宿の対応について

医事委員会にゲストを依頼し、講演してもらう。

新人、旧人に分けたクリニックの実施。

・新人募集について

新人オリエンテーリングを6月19、21日に実施。

D. Mの発送、監督への依頼、退部者への呼び掛け、現部員の出身OBへの呼び掛け、他協会へ東京勤務者の情報収集などを引き続き行う。

一般公募を具体的に検討する。

・各委員会より

インストラクタ・・・新人用マニュアルを至急用意。

映像・・・5月21日ドームにてロケーションを行う。

ルール・・・公式規則改正を5月15日に配布する。

◆第47回理事会(1990年5月8日)

・総務、組織、リクルート

部内ブロック再編成について試案を5月15日のクリニックに発送する。

・箱根合宿について

・事務代行者をテストケースで採用する。

◆第48回理事会(1990年6月1日)

・大学監督との懇談会について

6月4日日本橋で開催。理事全員が出席し、組織説明、監督へのアンケートに対する回答、フリーディスカッションなどを行う。

・6月12、14日に新人クリニックを開催。この実施状況を見て今後の対応を決める。

社会人審判グループとのコンタクトを円滑にするため、中尾理事が窓口となる。

・ブロック再編成は箱根合宿で最終案を発表、その後は必要に応じて修正する。

・8月中旬にアメリカ、サウスウエストカンファレンスで開催されるオフィシャルセミナーに部員を派遣する。人選、人数は未定。

◆第49回理事会(1990年7月7日)

・箱根合宿の手順、段取りについて

・秋季スケジュールについて

審判の絶対数が不足しており、関東学生連盟に7月末日までに15名の要員推薦を依頼した。

新人は11名の登録があるが、まだ十分でない。

・ブロック再編成に伴うブロックリーダーの選出は各ブロックのメンバーに一任。

・三樹君について

審判部として見舞い金を用意すべく合宿、8月クリニックで趣旨説明を行う。

・SFOAクリニックには笹田、薮内両理事を派遣。

・アメリカン・ボウルにはタイマー、チェーンクルースポッターを用意する。事前の勉強会を開催。

・新ルールブックは7月中に完成予定。

・連盟安全委員会主催の安全対策クリニックが7月9日に開催。

FOA・EAST・NEWS No.8

日本アメリカンフットボール審判協会

関東審判部・機関紙

発行： 1990年8月19日

発行責任者： 喜入 博

編集担当： 森 賢

※ 無断転載、引用を禁止します